

「日々の理科」(第1972号) 2019, 12, -2

「小石川植物園の新しい温室(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小石川植物園に新しくできた温室は、なかなかすばらしいものだ。植物園の入園料は大人500円に値上がりしたが、この温室見学は入園料に含まれていて、もう一度温室入口に券売機・・・なんてことはない。しかも今回から「年パス」まで登場した。5回分の入園料で、一年間何度でも入園できる。地元の人やよく訪ねる人は、絶対にお得だろう。(私は後援会会員なので、もともと同伴者共に、無料で入園できる)



エントランスも堂々としている。私は「最後尾30分待ち」の立て看板が出ていることを、「期待しながら」「恐れて」いたのだが、誰も並んでおらず、少々拍子抜けしてしまった。



これが戦前の温室の写真だ。当時から背の高い、立派なガラス張りの温室だったことがわかる。この温室は戦災で焼失、戦後に建った温室も耐震基準をクリアできず、新しい温室に生まれ変わったのだ。



エントランスを入ると、水生植物の池がある。さすがが研究用の温室という感じで、飾り気もないが、その分すぐ近くで特徴を観察できる。コウホネ、ヒシ(菱形の果実をつける)などが栽培されていた。



内部は天井が高く、(当たり前だが)窓が多く、(これも当たり前だが)すごく温かい。もちろん湿度も高く、温室独特の匂いがする。決して不快臭ではない。特に晩秋～冬にかけては、ほっとする空間だ。



私は新しい温室の設備にも「興味・関心」があった。天井を見ると、天窓の開閉装置、給水装置(給霧バルブ)などが見られる。たぶん、植物の種類や温度によって、自動的に管理されているのだろう。